

平成 24 年 7 月の解説（週間天気予報）

【7月の天候状況】

上旬は、梅雨前線が西日本から東日本にかけて停滞し北日本から西日本では曇りや雨の日が多くなりました。また、旬のはじめは梅雨前線に向かって湿った空気が流れ込んだ影響で九州を中心に大雨となりました。旬の終わりは移動性高気圧に覆われ全国的に晴れました。沖縄・奄美では期間を通して太平洋高気圧に覆われやすく晴れの日が続きました。

中旬は、前半は北日本から西日本では梅雨前線や気圧の谷の影響により曇りや雨の日が多く、西日本では大雨となった所もありました。特に九州北部地方では梅雨前線に向かって南から非常に湿った空気が流れ込んだため、所々で記録的な大雨となり甚大な災害が発生しました（「平成 24 年 7 月九州北部豪雨」）。旬の中頃は、太平洋高気圧が本州付近で次第に強まり、九州を除いた西日本と東日本では晴れましたが、旬の終わりは東日本の日本海側と西日本では湿った気流の影響を受けて曇りや雨となったほか、オホーツク海高気圧の影響で北・東日本の太平洋側では雲が広がり、気温が平年より低くなりました。沖縄・奄美ではおおむね晴れました。なお、四国、中国、近畿、東海、関東甲信地方では 17 日ごろ、北陸地方では 18 日ごろ梅雨明けしました。

下旬は、期間のはじめはオホーツク海高気圧からの冷たく湿った気流の影響で、北・東日本の太平洋側を中心に雲が広がりやすく、気温は平年より低くなりました。旬の中頃からは太平洋高気圧が強まり西日本では晴れましたが、北・東日本では気圧の谷の影響で雲が広がりました。沖縄・奄美では前半は晴れの日が多く、後半は曇りや雨の日が多くなりました。なお、九州南部地方と九州北部地方では 23 日ごろ、東北南部と東北北部では 26 日ごろ梅雨明けしました。

月平均気温は、全国的に高くなりました。月降水量は、北・東日本の太平洋側では少なくなりました。北・東日本の日本海側、西日本、沖縄・奄美では平年並でした。月間日照時間は、北日本の日本海側で多く、北日本の太平洋側、東・西日本、沖縄・奄美では平年並でした。

梅雨明けの時期は、いずれも速報値です。

【7月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、全国平均では例年値^{（注）}より 5 ポイント高い 70%でした。地方毎の適中率は、北日本と東日本、近畿地方及び中国地方で 5 ポイント以上高く、特に東北地方と中国地方では 10～12 ポイント高くなりました。九州南部地方では 12 ポイント低くなりました。

最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、北海道地方を除き例年値と同じか例年値より小さく、全国平均では例年値より 0.1 小さい 2.5 になりました。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国的に例年値程度か例年値より小さく、全国平均では例年値より 0.1 小さい 1.6 になりました。

（注）例年値は気象庁 HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【9月の週間天気予報の利用にあたって】

太平洋高気圧に覆われる日が多い 8 月に比べて、9 月は低気圧や前線が日本付近を通過しやすくなります。低気圧が発達しながら通過した後は北からの冷たい空気が流れ込むため、晴れても日中の気温は 8 月ほどには上がりにくく、夏から秋の気候へと次第に変化します。

また、晴れた日の夜は放射冷却現象により、内陸部を中心に朝にかけて最低気温が下がりがやすくなります。このため、日中と夜の気温の差が大きくなります。週間天気予報では、向こう一週間の天気予報とともに最高気温と最低気温の予報も行っていますので、日毎の温度変化とともに 1 日の間での気温差も確認し体調管理などに注意して下さい。